各自治体の工夫で消費効果を上げるプレミアム商品券（写真はイメージ）

の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と館山市の課題とを考慮して取り組む予定。また、平成27年度策定の「地方版総合戦略」における基本目標および評価指標と関連した設定を行う。

解説 地方創生事業に対して市の姿勢と具体策を問う質問でした。プレミアム商品券にしても各自治体により消費効果を上げる工夫や生活支援に結び付ける事例があります。また、今後の地方創生のポイントは「ひと」に着目した活気ある地域づくりであり、地域産業の活性化と様々な市民との交流の場の創設が大事と思います。

【質問】館山の海の資源の活用と保全について

①近年の磯や海底の変化や漁獲量の減少傾向について。
②漁業者や海関連の事業者による連携や協議による資源の活用等が必要ではないのか。

【答弁】

漁獲量の減少は働き手の減少にもつながる。海の魅力の発信に地域振興は欠かせない。

市内数カ所で「藻場」の消失が見られます。今後は館山水産事務所や各漁業協同組合と協力して対策を講じたい。現在、市内５つの組合による「館山市漁協合併研究会」を立ち上げ組合の経営基盤の充実を図っています。

解説 館山市の魅力に豊かな海の存在は欠かせません。海の環境の変化と対策、および更なる有効活用は　産官学等の連携による取り組みが必要であり、そのような会議の場を設けることを提唱しました。

【質問】被害の拡大するイノシシ対策について

①増加するイノシシの被害の今後の対策は。
②近年、住宅地に出没するが安全対策は。

【答弁】

捕獲されたイノシシ。駆除が追いつかない現状に農家のいらだちもつのる。

今後も捕獲事業と防護柵の設置に対する支援を継続し、住宅地近くの目撃情報もあることから、館山有害鳥獣対策協議会や地区町内会と連携をして情報提供をしながら捕獲の強化をします。

解説 駆除が追いつかない鳥獣対策は深刻な問題です。特にイノシシ対策は永遠の課題とも言えます。大事なことは、制度や補助金の設置だけでなく、実際に駆除に携わる人たちの現場の声や要望を踏まえての対策と人的な強化です。農業者でもある私の重要な取り組み課題です。

◎平成27年度当初予算の概要（第１回定例会）

一般会計は189億7500万円で、前年より11億1900万円増の過去最高額です。
この予算は市民生活に密着した事業を行うための会計です。他に、国民健康保険、後記高齢者医療、介護保険、下水道事業の特別会計で148億円、合計337億8千万円が当初予算ととなり、今後、国の動向により補正予算が組まれることも考えられます。今年度の取り組みや市の財政状況等、詳しくは市の広報『だん暖たてやま』や『館山市の家計簿』等で。

<市民からの声・要望>

（2月から4月までの期間に寄せられた声です）

・防犯灯の設置（３件）
・道路補修・排水対策（５件）
・国道・県道の安全対策（歩道設置等4件）
・イノシシ対策（4件）
・子育て・教育環境（３件）
・農業関係（３件）
・医療・福祉関係（３件）
・防災無線子局の設置（九重地区）

これらのご意見ご要望は、順次担当課につなげ、対策や改善をするように求めます。今後も皆様の声を市政や地域の発展のために、積極的に反映させてまいります。

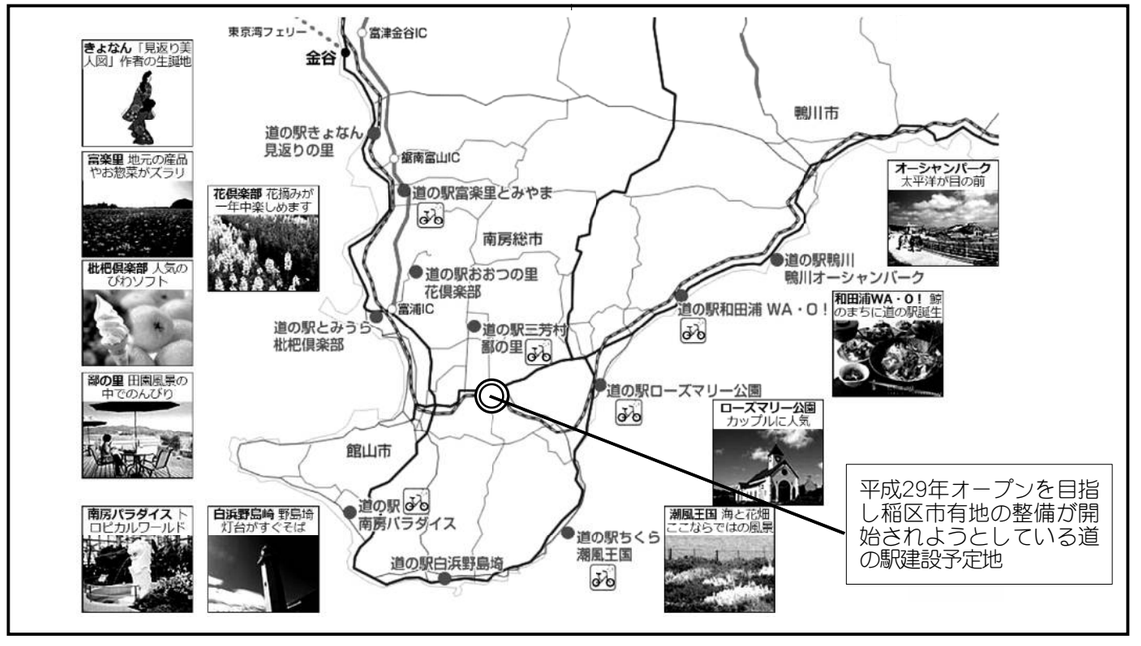
展望

“食のまちづくり”館山「道の駅」着工へ

新緑の５月、天候にも恵まれてゴールデンウィークはどこも人で溢れていました。観光地と言えば景勝地や温泉、歴史探訪や伝統文化等、その土地の際だった特色が条件でした。近年、集客効果とお客さんの満足度で高い評価を受けているのが『道の駅』です。今や全国的に設置されて、その地域の情報発信と経済効果をになう重要拠点として発展を続けています。

ところ農業といえば、食料の増産が至上命題であり、欧米にならいひたすら規模の拡大と生産力の向上に努力した時代がありました。その後、食習慣の変化や輸入農産物の増加が生産現場に大きな影響を与えました。また、従来の市場出荷から直接販売への流通の変化や、安心安全な食を求める新たな価値観は、農業従事者の高齢化や農業の新境地を求める人たちとの接点を生みました。その一つが直売所であり、発展形である『道の駅』です。

今、館山市は第一次産業や商工・観光関連の連携による活性化対策を「食のまちづくり計画」としてスタートしました。当然『道の駅』建設を目指すものの、さらに多機能な特色ある施設を作らなくてはなりません。房総半島は『道の駅』の密集地。「なぜ、いまさら？」、そんな声も聞きました。答えは簡単です。館山になくてはならないからです。群馬県川場村（人口3700人）の道の駅「川場田園プラザ」は関東で５年連続人気ナンバーワン、年間１５０万人の来客数。山口県萩市（人口52000人）の道の駅「萩しーまーと」は年間140万人の来客数を誇り、多面的な機能による波及効果を呼んでいます。

いよいよ館山市でも着工し、今年度から段階的に進めます。いよいよ出来る、そんな期待に胸を膨らませて完成を待ちたいものです。それまでの私の宿題は、食のまちづくり協議会のメンバーとして、様々な意見を反映させながら進めると同時に、「食のまち」を支える農業の生産基盤の拡充です。後継者の育成や新規就農者の養成も不可欠です。

このプロジェクトは行政力と市民の力、英知と経験、郷土の発展を願う人々の期待を背負ってスタートしました。さあ、館山『道の駅』から幸の道へ出発！